**ハンドマイク街頭演説原稿例　　今の健康保険証存続を**

二〇二三年七月六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

※署名に取り組んでいる場合は【】内も読む※

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、今の健康保険証を廃止してマイナンバーカードと一体化するための改定マイナンバー法が、先の国会で成立しました。自民、公明の与党に加えて日本維新の会、国民民主党が賛成して可決されたものです。国会審議の中でマイナンバーカードをめぐるトラブルが多発していることが明らかになり、健康保険証とマイナンバーカードを一体化させた「マイナ保険証」についても、他人の情報がひも付けされていたなどの深刻なトラブルがいくつも確認されました。これだけの重大な問題がわかったら、少なくとも結論を先送りして事態を見きわめるべきところ、会期内成立のため法案可決を強行した自民、公明、維新、国民民主の各党のやり方は暴挙と言わざるを得ません。

　すでに始まっているマイナ保険証ですが、今のところ利用が少ないにもかかわらず、すでに大混乱を引き起こし、患者や医療機関に大きな負担をかけています。それでも政府はマイナ保険証の運用を続ける方針です。岸田首相は保険証廃止を前提に、「マイナンバー情報総点検本部」を設置しました。とはいえ、問題解決のめどは立っていません。こんな中で健康保険証を廃止したら、それこそ命に関わるトラブルさえ起こりかねません。

　現在の健康保険証のしくみに、根本的な問題は起こっていません。マイナ保険証の強制を中止しても、今のしくみを続けるだけですから、問題はありません。そうであれば、被害を広げないためにも、欠陥が明らかなシステムの運用を停止するとともに、今の保険証のしくみを引き続き使うことこそ、本来とるべき対応ではないでしょうか。

　みなさん、ここまで混乱が広がり、マイナンバーカードを返納する人も急増しているにも関わらず、政府は保険証廃止の方針を変えないのはなぜでしょうか。保険診療が受けられなくなるかもしれないと国民をおどして、マイナカードの取得を事実上強制するためです。岸田首相は、マイナカードを「デジタル社会のパスポート」と呼び、国民全員に持たせると強調しています。命にかかわる医療を人質に取り、問題が起きても立ち止まることすらしない岸田政権のやり方は、国民の生活や健康のことなどまったく考えていないことの明らかな証拠ではないでしょうか。

　もともとマイナンバーカードをめぐっては、個人情報がもれることや、他人に悪用されることへの不安から、カードを作らない人が少なくなく、マイナンバー制度そのものへの反対意見もあります。マイナンバーカードを作るかどうかは、あくまで個人の任意であり、国が強制するべきものではありません。日本共産党は今の健康保険証を存続させ、マイナンバーカードの強制をやめさせるため、全力で取り組んで参ります。【健康保険証廃止の中止などを求める署名活動に取り組んでおります。ぜひご協力ください。】

　政治や社会の問題、気候危機、ジェンダー平等など多彩な記事満載の「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）